

名 称	令和5年度第2回目黒区障害者差別解消支援地域協議会
日 時	令和5年12月21日(木)午後6時～午後8時10分
会 場	中目黒 GT プラザホール
次第	1 開会 2 議題 (1)障害者差別解消に係る相談事例について (2)障害者差別解消に向けた取組についての検討～「あいサポート運動」について～ (3)区からの報告 ・令和5年度障害者週間記念事業「めぐろふれあいフェスティバル」及び障害者差別解消区民講演会の開催について ・めぐろ区報(11月15日号・12月1日号)について ・目黒区障害者計画(第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画)改定素案について 3 閉会
出席者	委員:岩崎委員(会長)、北本委員(副会長)、片渕委員、百瀬委員、原委員、吉田委員、土屋委員、内田委員、熊谷委員、小谷委員、岩原委員、島添委員、西田委員、中山委員 幹事:末木幹事(人権政策課長)、塚本幹事(人事課長)、田中幹事(障害施策推進課長)、寺尾幹事(教育指導課長)、山内幹事(教育支援課長) その他区職員:田邊(健康福祉計画課長)、浅野(身体障害者相談係長)、石田(知的障害者相談係長)田所(精神障害福祉・難病係長)、長谷川(発達支援係長) 事務局:小野(計画推進係長)、村野(計画推進係)
欠席者	田島委員、長尾委員、團村委員、村尾委員、黒澤委員、大塚幹事
配布資料	資料1:障害者差別解消に係る相談事例について 資料2:障害者差別解消に向けた取組についての検討～「あいサポート運動」について～ (別添1)あいサポート運動に関する調査表 (別添2)調査結果の概要 (別添2-2)あいサポート運動に関する調査結果(目黒区と人口規模が近い自治体抜粋) (別添3)目黒区障害者計画策定に関する調査結果(差別に関する問いの調査結果抜粋) (別添4)障害理解に関する事業の実施状況について 資料3:令和5年度障害者週間記念事業「めぐろふれあいフェスティバル」及び障害者差別解消区民講演会の開催について(報告) (別添)めぐろふれあいフェスティバルチラシ (別添)当日配布パンフレット 資料4:めぐろ区報(11月15日号・12月1日号) 人権週間記念トークセッションチラシ 資料5:目黒区障害者計画(第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画)改定素案について 参考資料:席次表 机上配布 ・障害者計画改定素案本編・概要版(閲覧用) ・保健医療福祉計画改定素案概要版(閲覧用)・意見募集チラシ ・介護保険事業計画改定素案概要版(閲覧用)・意見募集チラシ

会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1)障害者差別解消に係る相談事例について</p> <p>事務局から資料1に沿って説明を行った。</p> <p><b>委員</b>女性用トイレが少ない点に問題を感じており、男女のトイレ数を500か所程数えたところ1.75倍男性用トイレのほうが多かった。また、女性用トイレは並んでいることが多い。そのため、車椅子用トイレが空いていたら数分なら女性は入っていいと思う。多機能トイレはいつも空いているイメージがあるが、車椅子の方は待たされていると感じられ、感じ方が違うと思った。</p> <p><b>委員</b>多機能トイレやエレベーターは専用ではなく優先だと思っていたので、混んでいたら多機能トイレを使うときもあり、混んでいるのに空いている多機能トイレを開けておく必要があるのかと思う。国土交通省のチラシは、優先ではなく一般の方は使わないでという意味なのか。</p> <p><b>事務局</b>令和4年度から考え方が変わり、これまでは、車椅子やオストメイト、子ども連れ等様々な方に対応できるトイレとして多機能トイレや誰でもトイレとしてきたが、色々な方が使うことにより、本当に使いたい人が使えないという意見が多かった。そのため、国のガイドラインにより、令和3年度時点で建築物にかかる基準が変わり機能を分化することとなり、東京都でも令和4年に規則改正を行うなど、新しく建てる建築物等にはできるだけ機能を分化したトイレを設けることとなった。そのため基本的には、国全体としてバリアフリー設備が必要ない方は一般のトイレを利用する方向である。</p> <p><b>副会長</b>見た目は健常者だが事情を抱えている方もいるため、見た目だけで判断されないよう、そのような啓蒙や啓発も必要だと思う。</p> <p><b>委員</b>車椅子用トイレを使いたいときに使われていることが多いため、待つ印象は強い。最近サービスエリア等で、女性用トイレが男性の2倍程のスペースになっており、色々なところで同様な状況になれば、女性用トイレの問題は解決されると思う。障害者等用駐車区画については、車椅子利用者が扉を全開にして乗り降りできるためにスペースが設けられているので、一般の車が停めてしまうと車椅子の方はその施設自体に行けないという状況になる。全部を障害者等用駐車区画にすることは難しいので、スペースを必要としない方は障害者等用駐車区画を使わずに空けておいてほしい。</p> <p><b>委員</b>誰でもトイレを使ったことがあり、もしかすると障害のある方を待たせてしまっていたかもしれない。AI等で本当に必要な方が選別するようなシステムがあってもいいと思うが、コストもかかるため簡単には解決することが難しい問題だと思う。</p> <p><b>委員</b>エレベーターで困ることは、途中階から乗りたいときに乗れないこと。1階から行きたい階まで行くときは乗れないことはあまりないが、途中階から乗るときは待っても乗れないことがある。</p> <p><b>委員</b>視覚障害のある方にトイレはどこかと聞かれたら多機能トイレと普通のトイレどちらを案内するか。</p> <p><b>会長</b>両方空いているが、どっちがいいか聞く。</p> <p><b>委員</b>そのようにコミュニケーションを取れると良い。美術館に行った際、係の方にトイレはどこか訪ねると遠いところにある多機能トイレに案内されたことがある。多機能トイレは普通のトイレと広さや配置、機能等が異なっており、視覚障害のある方にとってはとても使い</p>
------	--

づらい。障害があっても皆それぞれ違うので、当事者の方が感じることを口に出して分かってもらったりポスターでの周知も必要。階段等でも周りの方が大きな荷物を持って急いでいると、ぶつかって落ちてしまう可能性があるのも、空くまで待っているが譲ってくれる方は少ない。こちらから譲りましょうよと声掛けをするのも難しく心苦しいので、視覚障害のある方や子ども連れ、車椅子の方などに配慮があるといいと思う。

**会長**トイレのアナウンスは、視覚障害のある方用にあるのかと思っていたがあまり役に立たないのか。

**委員**最初からあまり多機能トイレには行かず一般のトイレを選ぶので、アナウンスは有効だとは思いますが、あまり必要としていない。

**委員**思いやりが必要。永遠のテーマだと思う。

**委員**車椅子用トイレで人が入っているとき何分くらい待つか。

**委員**2・3分待つて中の人が出そうであれば待つが、出そうでなければ待たない。間違えて中の閉めるボタンを押して出てきてしまう人がいて、誰も入っていないのにロックされてしまうときがあるので、ボタンの使い方についても考えなければいけないと思う。

**委員**健常者が多機能トイレを使ってもいいが、健常者が使うときは早く出てくださいと貼紙をするのもいいと思う。

**委員**国や都のポスターを始めて拝見したが、あまりこのようなポスターは周知されてないと感じたので、ここはこういう方が使うということをもう少し周知してもいいと思う。事情があり、誰でもトイレを使うときがある。使うときに入る人がいないか確認したり短時間で終わるよう工夫しており、当事者の方とすれ違うことはなかったが、当事者の方からすると待つことをためらうこともあると思うので、すれ違いが起きているかもしれないと思った。思いやりを持ち、話し合いをしながらトイレを有効に活用できればいいと思う。

**副会長**マナーと思いやりが重要。エレベーターは皆乗ってもいいけれど、途中で車椅子の方がいたら降りるとか、トイレも健常者の方も待つことはとても多く、障害があれば待たなくていいということではないので、障害のある方がいたら先に譲り、出てきたときに障害のある方がいたらお待たせしましたなどの声掛けをする、それぞれの思いやりが必要。また、障害者等用駐車区画についても、やむを得ず駐車するときは運転手だけ残り、障害のある方がきたらすぐに場所を譲るなど色々な配慮をしながらお互いに気持ちよく生活ができるようにすることが必要だと思う。

(2)障害者差別解消に向けた取組についての検討～「あいサポート運動」について～事務局から資料2に沿って説明を行った。

**委員**障害者計画策定に向けた調査の中で、差別をされた場所で職場が上位を占めており、障害者雇用を行っている企業に啓発活動は行っているが、もっと活発化しなくてはいけないと感じた。利用者・企業とよくやり取りをしており、利用者から差別や暴言を受けたという話は聞かないが、気を使われすぎて仲間に入れてもらえないと感じている方がいる。周りの方が残業をしているなか、自分だけ無理せずに帰っていいと言われるのが心苦しく、対等に扱ってほしいという意見がある。企業の側からすると、無理をさせたり傷つけないように不安感や気遣いで発言をしているので、双方で話す場を設け、分かりあえた実体験がある。向かい合う、話し合う思いやりを持つことが大切だと思う。

**副会長**あいサポート運動への参加についての最終的な見解について、事業者を対象とした啓発の事業者とはどのようなところを対象としているのか。

**事務局**具体的な分野を特定しているわけではなく、小さなお店等も含めて区内で事業を行っているところを考えている。他区で行っている事業者を対象とした平等研修等も参考にしながら検討していく。

**副会長**広く網掛けすることもいいが、広くしすぎると本当に来てほしい人は自分だと思わないので、当事者の方にピンポイントで受けてほしい団体や職場、事業者があるか意見を聞いてみるというと思う。

**委員**以前勤めていた職場で上司から不適切な言葉を言われており無理して働いていたことがある。上司や同僚ですら自覚のないうちに相手の気分を害することがあると思う。

**委員**めぐろ区報10月15日にマゼンダ・スターの記事が載っていた。バッジをつけている人に色々なことをお願いできるというサポート活動だが、これについてもう少し情報があるか。

**事務局**民間の方が取り組んでいるもので、マークを付けている方はなんでもお手伝いしますよという趣旨のもの。クラウドファンディングで資金集めをして立ち上げているものだが、民間の方の取組を広げていくという趣旨のもと区報で紹介している。

### (3)区からの報告

・令和5年度障害者週間記念事業「めぐろふれあいフェスティバル」及び障害者差別解消区民講演会の開催について

事務局から資料3に沿って説明を行った。

**委員**区長表彰には、式典にこんなに人が来るのかというくらい人が集まっていた。車椅子ラグビーの体験を初めて行ったが、とても面白かったので皆様にも体験してほしい。パラスポーツが面白いということを広げてほしい。

・めぐろ区報(11月15日号・12月1日号)について

事務局・幹事から資料4に沿って説明を行った。

・目黒区障害者計画(第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画)改定素案について  
事務局から資料5に沿って説明を行った。

その他(感想)

**委員**事業者は、ハラスメントやワークライフバランス等様々な問題を抱えており、指摘があった点について、事業者としても協力していきたい。男性用トイレも個室に入る人が多く、混んでいるので、トイレを設置する際は様々な問題点を考慮してもらえるような運動もしてほしい。

**委員**事業者の1人として、調査結果を見てショックを受けたが、事業者の人たちも気付いてないことがほとんどだと思うので、このような機会に触れて問題意識を持つことが大切だと思う。トイレやエレベーターについて、素晴らしい設備ができてもしっかり運用できないといけなので事業者でも色々検討している。自由が丘の駅前広場に設置されているトイレは、来年リニューアル予定で、障害者の方々にとって使い勝手が良いものになるといいと思う。

**委員**本日の議論は、知らないから分からないということが根底にあると思う。この3年間以前学校がやっていた理解啓発や子ども・教職員の交流等が出来なかった。大学生が教職課程を取るステップとして介護等体験という形で100人程学校に来ており、障害のあるこどもと接したことがない学生が、実際に一緒に過ごすという経験ができる。また、副籍制度というものがあり、こどもたちは地域のなかで挨拶を交わしたり、同時に保護者同士の

繋がりもできる。そのため、学校の交流活動や理解啓発が進むと分からない・知らないということが減っていくと思う。

**委員** 障害の種別によって使いやすいトイレが違ふと勉強になり、決定してもらうという自己選択が大事だと思った。学校は、男女や LGBTQ 等違いがあることを認めるという大きなテーマのなかで、色々な教育に取り組み、進めていくことで子どもたちに何が大事かを伝えていける役割を持っていると思う。

**幹事** 障害のある方もない方も多様性を認め合いながら生きていけるようにというのは本当に重要なテーマだと思う。今までコロナで進んでいなかったことが少しずつ動き出し、1月に美術館で目黒区の子どもたちの作品展示を行うが、副籍のある子どもたちの作品も展示されることになっており、徐々に副籍交流も盛んになっているので障害理解というところを含めて頑張っていきたい。

**事務局** 現在の任期については、今年度で終了。来年度からの委員委嘱については、来年度当初に推薦依頼及び就任以来を行う。

3 閉会